

だごみ

平成二十二年

十二月

59号

題字 寺澤嘉子

茶会 春夏秋冬

雲雀丘ユニット利用者 山田豊美
入梅で中庭の雨に洗われる木々や
草花を愛ながらの六月十八日の茶会
に可愛いお客様がありました。

先生の初孫亮晴君（当時・一歳十
カ月）で彼の茶会デビューでもあり
ます。

二脚の椅子をベッドにして無邪気
に眠る寝顔に『可愛い！』の声があ
ちこちからあがり、参加者全員が癒
しと和みに満たされました。

この日は夏の特特点前（幻々斎御
好み）葉蓋の御話でした。

葉蓋は涼しさを演出するために水
指の蓋を紫陽花又は蓮の鮮やかな緑
葉で代用する御点前で茶人の高い審
美性と風雅さが窺えます。又、利休
は茶の心得として

冬はいかにも暖かく
夏はいかにも涼しきように

炭は湯が沸くように
茶は服がいいように

花は野に咲くように
降らずとも雨具の用意を

刻限は早めに
相客に心せよ

と述べ利休七則としました。

日常に、人に、自分自身に疲れた
時、自然体への気づきを平易な文で
述べていきます。

知的遊びである茶道から学ぶこと
は多くあります。

茶は松寿園の松風、菓子は一風堂
の梅雨桜でした。

M氏は先生の御点前による薄茶を、
職員さんの手助けで飲まれた後、『お
いしかった。また参加したい。』との
言葉を頂きました。

先生の御着物は、頂き物（反物）
を御自身で手縫にされた綿地の紵の
藍染に紫色の半巾の帯という涼風の
感のある装いでした。



展示の道具は
床 瀧 直下三千文

前大徳寺 大道和尚

花 竹籠に紫陽花 鳴子百合 露草

蓋置 竹 大道寺 長谷川寛州

香合 白壇入りのあま小舟

茶碗 黄瀬戸 織部 赤楽

いずれも平茶碗

七月二十三日の茶会に

展示頂いた道具

床 明歴々露堂々 寛州

花 水を含んだこけ玉に

桔梗・撫子・虎の尾

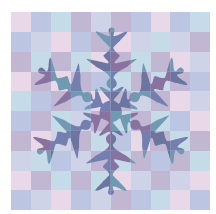
茶杓 蝉しぐれ

平茶碗 三点

寛州

―名水点の御話で―

茶を飲む前に清く冷たい名水を頂
くもので、水差（木地のつるべ型に
注連縄（しめなわ）が巻かれている）
が置かれることで客は名水点である
ことがわかります。盛夏の折、
涼をさそうために茶人（十一
代幻々斎）の演出が際立つ夏
限定の御点前です。



―続いてあうんの呼吸について―
神社に置かれた一対の狛犬の一方は「あ」、他方は「うん」の口型で鎮座しています。

これは物事の始めと終りを表すとも又、二人以上の人が、事を行う時の間合を計る吐く息・吸う息の呼吸を表すともいわれているそうです。

茶会で招く人（亭主）と招かれる人（客）の間で互いを思いやる「あうん」の呼吸を心得ることは一期一会の教えにふれることになるかとの御話でした。

参加者Sさんは茶と花、そして和裁に熱心だった娘時代をなつかしみ、何十年振りの薄茶とのことで感慨深い御様子でした。

この日はいただく茶と菓子（清閑院の花火咲く）が美味しいとゆ小菊つにも増してうれしいお声を頂きました。

季節の先取りへの気遣いが感じられる先生の装いは、黒地に赤い絞りが目を引くゆかたと半巾の薄紫の帯でした。

九月十七日の茶会は、和菓子について御話から始まりました。

茶席では、薄茶には干菓子を、濃茶には生菓子を頂きます。

干菓子は乾いて水分の少ない押物、有平糖、煎餅等をさし、生菓子は甘味が強く、量感のある練切り、饅頭、芋物等をさします。

どちらも季節感と日本文化である折々の行事を大事に形にしていることが多く、目と心と口で旨みを味わうことで、同時に茶の旨みも増すことになるとの御話でした。

展示の道具は

軸 松無古今色 大道

萬里無片雲 寛州

花 籠に時鳥（ほととぎす）

紫式部 むくげ 秋めい菊

小菊 ススキ 吾亦紅

蓋置 青磁の三つ人形

赤とんぼ 城岳

茶杓 みのり

棗 大棗 笹と桐 一斉

平棗 総竹林 順慶

今回は先生の御母堂（池島二美枝

様 七十八歳）の御自身作品、志野焼の縦長水指を展示頂きました。



ベーシユと極薄ブルーの二色使いで御人柄を映して、ふんわりと優しい暖かさが伝わり、皆様に好評でした。

御若い頃は堪能な英語を活かし国際電信電話公社に勤務され、現在も発音・スピーキングともいささかの衰えもみられません。毎回、先生の傍らで、絶やすことのない笑顔で点々出しの御運びや、水屋のこまごました御手伝を頂いています。御自愛され、健やかな日々をと切望致します。

この日は楠田様（九十九歳）・田口様（九十三歳）・赤尾様（九十二歳）を含め、十三名の参加がありました。この様に茶会が長寿で御元気な方々が集い、喫茶する和みの会になっている事は、御指導頂く中瀬古先生への感謝の礼になろうかと自負しております。

委員会報告 研修委員会

プライバシー・法令順守の研修を十一月四日・十日に行ないました。

研修内容は、個人情報報の取扱い方、各サービスに関連する事項を説明し、判例等から実際にあつたトラブルの事例を紹介しました。個人情報報の取扱いには十分な注意を図り、更に保護に対する意識を高めていきたいと思ひます。(有田)

感染症委員会

今回の感染症委員会では、十一月に開催の感染症研修の最終打ち合わせを行いました。ノロウイルス、インフルエンザ対策や、感染経路の遮断、ガウンテクニクに関する知識の再確認をしました。これからの季節は、感染症の流行が考えられる為、職員の意識向上に観点を置き、換気、手洗いうがい、湿度調節について話し合いました。

ご利用者の健康管理を考える為に、まず職員が媒体とならない様に意識

を高く持つように留意していきます。

(岡村)

ユニット便り

青葉台・五月台ユニット

十一月初旬・中旬に武庫川のコスモス畑に、下旬には箕面公園に、紅葉を見に外出行事を行いました。

コスモス畑には、色とりどりの花がたく



さん咲いており、ご利用者も「うわ〜！きれいやね〜！」と大変喜ばれていました。

箕面公園の紅葉も色付いており、「こんな綺麗な紅葉を見れて嬉しいよ！」と喜びの声を頂き、職員も一緒に紅葉に見とれてしまいました。

(池下)

逆瀬川・星の荘ユニット

十一月上旬の晴れた日に、当ユニットでは恒例の、御所川へのお散歩

と鯉のえさやりに行きました。何度来ても皆様飽きないようで、身を乗り出して川を覗きこみ、「そこにおるわ！」とエサを投げ入れていました。寒くなると外に出る

ことも躊躇しがちになりますが、お正月には神社への初詣に行きたいという声もありますので、是非行きたいと思っております。(高橋)



「冬の脱水に注意」

医務室 渡木美保

今年の夏は暑さが厳しく、熱中症や脱水に対する注意を呼び掛けることが多くありました。しかし、脱水が起こるのは暑い夏だけではなく、りません。

- ・冬は空気が乾燥しているため、体の水分が蒸発しやすい。
- ・発熱や下痢などで体内の水分が失われる。

- ・高齢者は、水分を多く含む筋肉の量が少ない為、脱水に傾きやすい。



・加齢により、のどの渇きを感じにくくなったり、トイレを気にして水分摂取を控えてしまう。

・心臓や腎臓の病気があり、利尿剤を飲んでいる。または便秘のため下剤を飲んでいる。

など、これらの要因から冬でも脱水に注意が必要なのです。

冬場は手洗い・うがいと合わせて水分補給を心がけていくと共に、リビングや居室での乾燥に注意を呼び掛けていきたいと思えます。

ご家族の皆様も体調の崩しやすい時期ではありますが、くれぐれもご注意願いたいと思えます。



行事食を実施しました

十一月の行事食は、初めてユニットごとに行いました。

少人数制にする事で調理師が実際にご利用者のそばまで伺い、目の前で調理・盛



り付し、できたての食事を提供する事ができました。

揚げたての天ぷら、屋台用鉄板を使った

本格焼きそば、フレンチのコース料理と、どれも大変好評でした。

フレンチではテーブルセッティングからBGM、スタッフの服装にまで気を配り、まるで高級レストランに行

ったかのような気分を味わって頂けたと思います。

いつもとは違った雰囲気、少し緊張ぎみに背筋を伸ばして食事されている姿が印象的でした。(森田)



前菜:サーモンとアボガドのタルタル
メイン:牛すじのやわらか煮込み
彩り野菜を添えて
デザート:桃のムース 華やかアントルメ
パン

【年末年始行事のご案内】

お餅つき

平成二十二年十二月二十六日(日)
十四時～十五時 デイルームにて
年末恒例となりました餅つき大会を行います。蒸したてのお米を臼と杵を使ってつき上げます。熱々の出来たてのお餅をご賞味下さい。

ふるまい雑煮

平成二十三年一月一日(土)

～三日(月)

十時～十四時 デイルームにて
宝塚市社協歳末助け合い募金の助成により「ふるまい雑煮」を行います。お時間ございましたら皆様でお誘い合わせの上、お越しください。
(なくなり次第終了)

編集後記

早いもので今年も後わずかになりました。風邪をひいたり体調を崩して、『ゲゲゲ』とならないよう、くれぐれもご自愛頂き、良いお年をお迎えください。(杉本敏)